

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

「山と人—ロプチン峰初登頂(KG-2 6805m)報告書」その2

前号で標記の報告書について、「そう簡単に手に入る本ではないが、内容が濃かったので紹介させてもらった。」と書いた。が、実際は神戸大学山岳会のホームページ <http://www.acku.net/index.html> のトップに内容が掲載されており、そこから注文が可能で、簡単に手に入れることができる。送料込み3000円。以下、そちらから再度内容を紹介するので、興味のある方はぜひどうぞ。山田さん曰く「会報『山と人』は広く世に発信する目的があります。」とのこと。その必要もないかもしれませんが、小生にご連絡頂いても山田さんに取り次ぐことは可能です。

カンリガルポ(崗日嘎布)山群はヤルツァンポー川の大屈曲点付近から東南に延びる全長約280kmの山脈で中印国境に位置し、政治的に未解放地域となっている。近年、松本徕夫氏、中村保氏等の踏査と研究で概要が明らかにされた。新たに発見されるピークもあるが、40座を越す6000m峰が今日まで全て未踏峰のまま残されてきた。2003年の神戸大学による最高峰、若尼峰(Ruoni 6882m)の試登が世界的初登山だったが豪雪で敗退している。この度神戸大学・中国地質大学合同隊が初登頂したロプチン峰(KG-2 6805m)は阿扎氷河に聳える三姉妹峰の中央峰で山脈の第二の高峰。

☆頒価 3,000 円 (日本国内送料含)

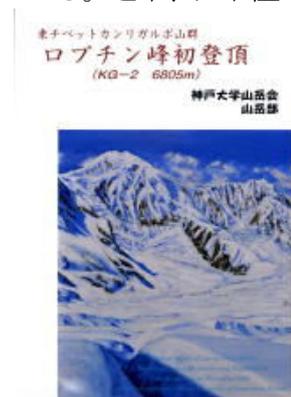
☆連絡先：神戸大学山岳会事務局

e-mail:acku_office@acku.net

郵便住所:〒675-0016 加古川市野口町長砂1313-5神戸大学山岳会事務局長 山田健

☆ご依頼に際しては 1) 書名、2) 必要部数、3) ご依頼者氏名、4) 送付先住所、5) 電話番号、6) e-mail、7) ご所属 を明記の上e-mail または郵便にてお知らせください。

☆お支払い:書籍発送時に同封の指定口座に振込み願います。



高体連長野県大会への意見並びに提案 大町北高校 小林 國弘

昨今、登山県大会において、大きな趣旨であった交流及びレベルの向上という視点が薄れてきています。かわって名称の如くの「競技」色が非常に色濃くなり過ぎています。かつてあった夕食後の生徒の交流会はどこにいったのでしょうか。生徒は、自らの学校やチームでの不足している点や劣っている所を反省することよりも、他校チームよりわずかでも点数を多く取ることに執着する現状。減点される項目があったなら、それはつまり未熟な点があったことと言えるのですから、そこを改善しようという気持ちをまず持つことが先決でしょう。単に負けたことを悔しがる、若しくは、言い訳や誤魔化しをしようとする生徒の姿勢は、本当に不快です。こういった姿勢は、本来の登山では通用しないことです。持つべき装備を持たない、事前の装備点検を怠る、不十分な装備や

技術で済まそうとする、するべきことをしない、または出来ていない等々。競技ではそれで済んだとしても、実際の登山では即、遭難や命の危険に結びついてゆく問題です。

県大会は、もちろん競技ですから、各項目を設けて点数化して順位をつけ、全国大会や北信越大会への出場チームを選別する場ではあります。しかし、それに固執するあまり、本来の登山からかけ離れ、規則のための登山形態に陥っては、意味の無いことと思います。差をつけることより、全体のレベルの向上、未熟な部分の改善を基本にすえることの方が大切なのではないですか。登山競技が、このような状況に陥った背景には、まずは顧問、役員の姿勢に問題があったと言えます。審査員は勿論、運営担当であっても、役員である立場の人間が、どこかの学校が強いか、どこより点数が取れたとか取れなかったとか、あからさまに勝敗にこだわる姿勢を示している姿もないとは言えません。その現状が生徒に反映されない訳はありません。また、審査員会に於いても、序列化、差別・選別化に重点を置き、教育や育成という発想は薄れ、自らの学校に有利になるような発言がないとは言えません。今年度の大会において、石や水による重量調整をするという、フェアと言えぬゆゆしい行為が問題となりましたが、こういう生徒やチームを生んだ元凶は、他ならぬ我々大人であります。

いま一度初心に立ち返り、競技はしていても、やはり主眼は、レベルアップと交流に置くべきと考えます。そこでまずは、全国大会に通用するチーム選びのみを主眼とする今の大会の雰囲気と形態は、是非改善されることを願います。

多くの生徒がそして我々職員も、気持ちよく参加できる、そんな大会になることを祈って、僭越ながら提案しました。専門委員会等で検討のほどよろしくお願いします。

専門委員には、「前年度表彰チームの学校関係者を審査員にしない、読図ポイントの設定にはGPSを使用しない、荷物の軽量化はむしろ推奨すべきなので担荷重量計測はしない。」など、小林さんからは具体的な提言も届いています。前々号で、競技上の問題点については、「審査員会の講評に委ねる」と書いたが、今回の大会で起きた重量調整問題に関わっては、実は小生も全く同じことを感じていた（競技偏重の現状と、生徒には罪はないという意見）ので、小林さんの許可を得て掲載しました。（太字大西）

濡れても破れないノート、濡れても書けるボールペン

山行中の記録を取ろうとしたときに、「雨でノートが濡れてしまった」とか、「ボールペンを雪の中に落として先端が濡れて書けなくなった」とかいうトラブルに見舞われたことはないだろうか？もう知っている人には周知の事実で、目新しいことではないかもしれないが、濡れても破れないノートと濡れても書けるボールペンを紹介する。

ノートの方は各社から出されているが、材質は高校の文化祭などではよく使う「ユポ紙」と呼ばれるポリプロピレンベースの合成紙でできているもの。「昭文社の地図などに使われている紙」といえば、「ああ、あれ」と思い当たる向きもあるはず。これは100パーセントの耐水性があり、濡れてもしわになったり破れたりしない。もちろんどんな筆記具を使っても書くことができるというすぐれもの。

一方、濡れても書けるボールペンというのは「加圧式ボールペン」といわれるもの。通常のボールペンと違い、ボールの回転で水を巻き込まないため、ペン先が濡れても、また濡れた紙の上でも書くことが可能である。両者の相性もいいので、これをセットで使えば、雨や雪の日でも全く問題ない。ご存じのない向きは是非一度お試しを。